

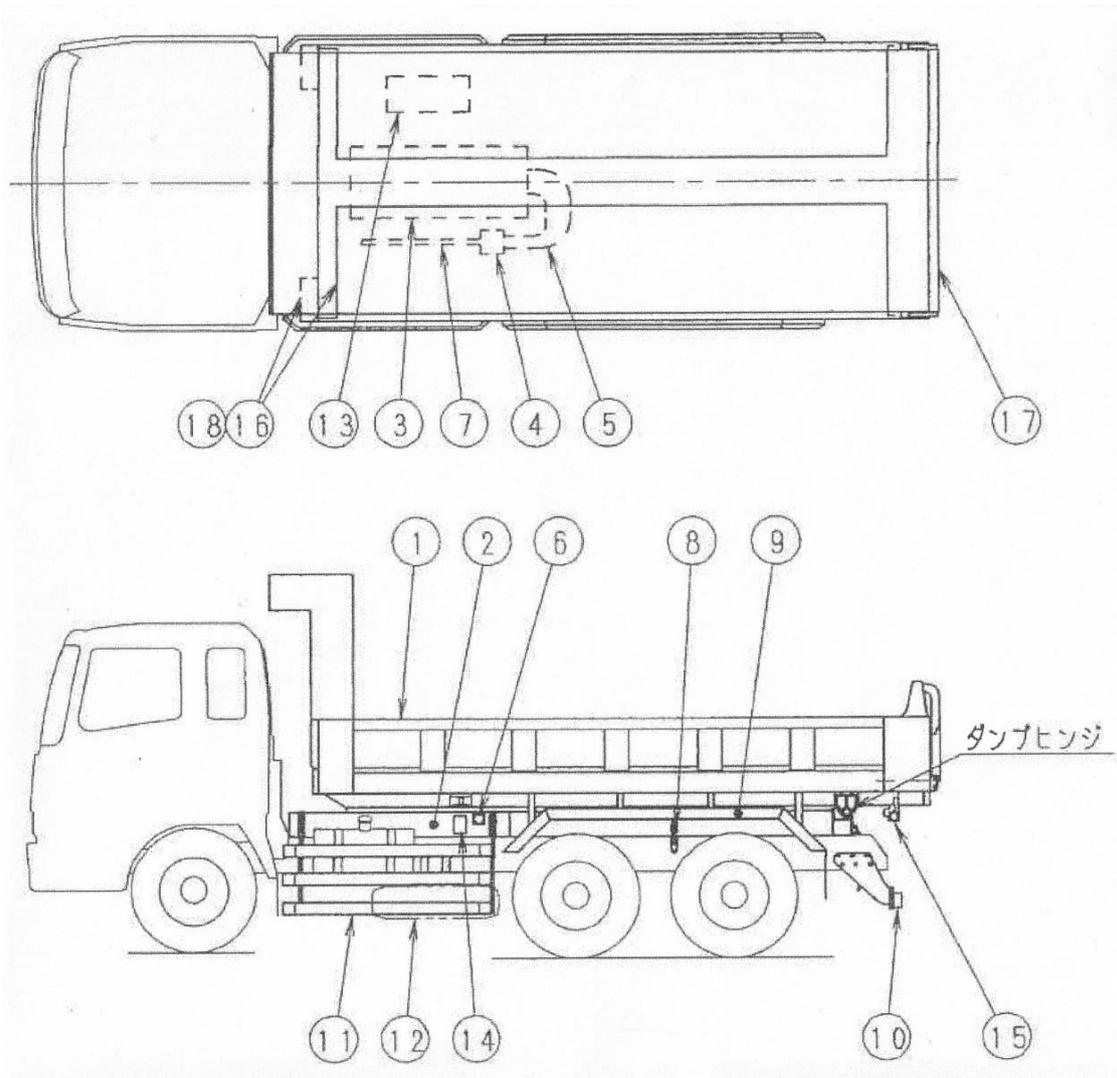
# ダンプ車、解体マニュアル

本解体マニュアルは一般的解体を示している為、搭載した図等は  
実際と異なる事があります。

令和6年12月9日

エイシン車体工業株式会社

## ダンプ車解体マニュアル



(注) 上記図は一般的なダンプ車を例として表示しており車体及びダンプ車の仕様によって、形状などが異なる場合があります。

番号	各名称	番号	各名称	番号	各名称
1	ダンプ車荷台	8	Uボルト等	15	外装部品
2	サブフレーム	9	リヤフェンダー	16	飛散防止装置
3	ダンプホスト機構	10	リヤバンパー	17	テールゲート類パッキン
4	ポンプ	11	サイドバンパー	18	天蓋
5	配管・ゴムホース	12	スペアタイヤキャリア		
6	自重計・ホース	13	ツールボックス		
7	ドライブシャフト	14	グリス給脂装置		

# ダンプ車解体マニュアル

品名・番号	品名	解体方法	注意事項
	事前処理 1	ダンプ荷台が空である事を確認し、外装部品を外して下さい。 (サイドバンパー、スペアタイヤキャリア、ツールボックス、リアフェンダー等)	周囲の安全を確認下さい。
	事前処理 2	荷台が降りた状態で作業願います。 ダンプ用ポンプの低高圧のフレンジを外し、作動油を抜いて下さい。 オイルパンは油圧機器を取り外す迄、用意して下さい。 標準車の作動油量は、大型車で約40Lです。	作動油受け皿等を用意して下さい。
車体全体	ダンプヒンジ	ダンプヒンジのピン及びシャフトを抜いて下さい。	周囲の安全を確認下さい。
車体全体	ダンプ荷台全体	天井クレーンを使用し、ダンプ荷台を水平に吊り上げて下さい。	ワイヤー掛けを確実に行って下さい。
車体全体	ダンプ荷台降ろし	ダンプ荷台とダンプホスト機構を繋いでいるピン・ボルト等を外し ダンプ荷台をシャシから降ろして下さい。	クレーン等を使用し安全確認して下さい。
車体全体	ダンプホスト機構	オイルタンク、配管等を外し、ダンプホスト機構を降ろして下さい。 ダンプ用ポンプ、ドライブシャフト等を外して下さい。	クレーン等を使用し安全確認して下さい。
車体全体	サブフレーム固縛	Uボルト等外して、サブフレームを降ろして下さい。	クレーン等を使用し安全確認して下さい。
1	ダンプ荷台	ブラスマ切断、ガス切断等にて裁断して、材質別に分別して下さい。	切断ヒューム、粉塵等に注意して下さい。
2	サブフレーム	ブラスマ切断、ガス切断等にて裁断して、材質別に分別して下さい。	切断ヒューム、粉塵等に注意して下さい。
3	ダンプホスト機構	ダンプリンクは金属と樹脂類を分別して下さい。	
4	ポンプ・油圧機器	各機器より油を抜いて下さい。油圧機器は適切に処理して下さい。	作動油受け皿等を用意して下さい。
5	配管・ゴムホース	残油を抜いて、金属とゴム別に分別して下さい。	作動油受け皿等を用意して下さい。
6	自重計・ホース		作動油受け皿等を用意して下さい。
7	ドライブシャフト	取り外して分別して下さい。	
8	Uボルト類	取り外して分別して下さい。	
9	リアフェンダー・マッドガード	金属類とゴムや樹脂類に分別して下さい。	
10	リアバンパー	取り外して分別して下さい。反射板等が付いている場合は 金属類とゴムや樹脂類に分別して下さい。	
11	サイドバンパー	取り外して分別して下さい。	
12	スペアタイヤキャリア	取り外して分別して下さい。	
13	ツールボックス	取り外して分別して下さい。	
14	グリス給脂装置	金属類とゴムや樹脂類（グリスチューブ）に分別して下さい。 グリスとチューブは適切処理して下さい。	
15	外装部品	取り外して分別して下さい。	
16	飛散防止装置	金属類とシート類に分別して下さい。 電動モータ有る場合は配線なども分別して下さい。	荷台に溶接されている場合が有ります。
17	テールゲート類パッキン	荷こぼれ防止の為、パッキンが装着されてる場合は金属類と ゴム類、樹脂類に分別して下さい。	パッキンが接着されている場合が有ります。
18	天蓋	飛散防止の為、手動式・油圧式の天蓋が付いてる場合は 金属類とゴム類・樹脂類に分別して下さい。	荷台に接着されている場合が有ります。

## お問い合わせ先

問い合わせ先は下記までお願い致します

エイシン車体工業株式会社 担当：空閑

TEL：092-963-2527

FAX：092-963-2566